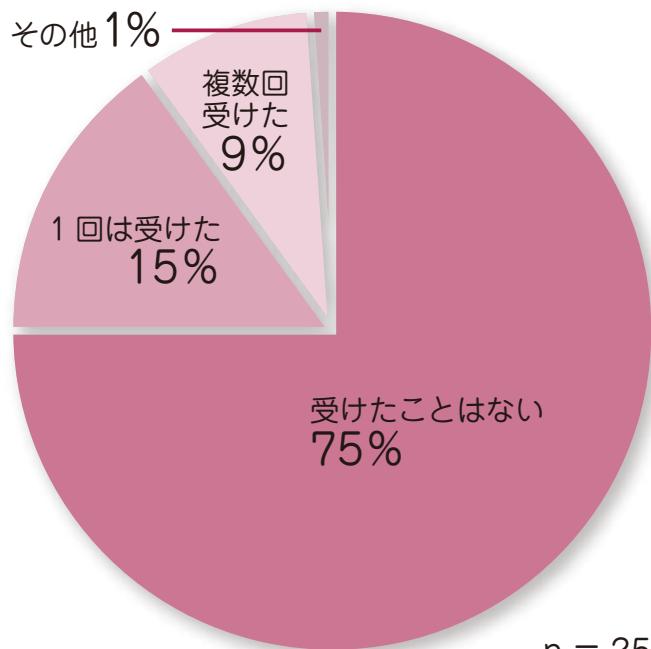


Q. 歯周病対策について、医療機関で説明や指導を受けたことはありますか？



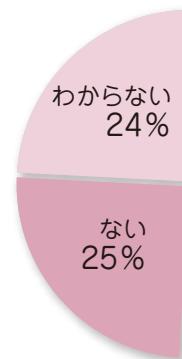
糖尿病で通院している医療機関で、歯周病対策についての説明や指導を受けたことのある方は、4人に1人程度という結果でした。回答者の半数は、歯周病になった経験があるとの回答でしたが、歯周病になったことについて主治医や医療スタッフに報告や相談を行ったことがある方はその中の約3割。報告については、あまり重視されていないようです。

Q. 下記のような状態（歯周病の症状）を経験されたことはありますか？

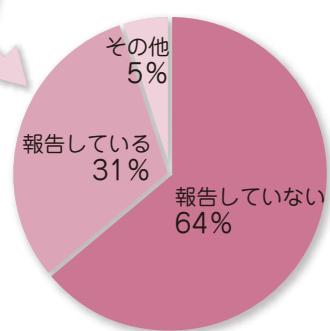
（複数回答可 n=251）

- 食べ物が歯に詰まりやすくなる 63%
- 歯を磨くと血が出る 46%
- 口臭が気になる 41%
- 歯茎が赤く腫れている 31%
- 口の中が乾燥してネバネバする 29%
- 以前よりも、歯が伸びた気がする 23%
- 歯茎が白っぽくブヨブヨした感じ 14%
- 歯が抜けてしまったことがある 14%
- 風邪を引いたときに、歯茎が腫れる 9%
- とくにない 8%
- その他 2%

Q. 「歯周病」になった経験 (n=251)



Q. 主治医や医療スタッフに報告は？ (n=128)



また、歯周病は糖尿病の合併症であることを「聞いたことがある」方は64%、糖尿病があると歯周病になりやすいことを「知っている」方は77%と、認知率はそれほど低くはありませんでした。歯周病予防のために日頃行っていることとして、76%が「きちんと歯を磨く」、62%が「血糖コントロールを守る」、45%が「定期的に歯科医院で検査している」など、患者さんそれぞれ工夫されている様子も見受けられますが、63%の方は「（歯と歯の隙間が大きくなり）食べ物が歯に詰まりやすくなる」、46%が「出血」、41%が「口臭」、31%が「歯茎が腫れる」など、多くの方が歯周病の症状を経験されているようです。

自由記述では、「糖尿病の事をわかっている歯科医院を探すのに苦労する」「1型糖尿病というだけで治療拒否されたことがある」「拔歯をすることになった時、糖尿病の有無を聞かれなかったので驚いた。歯科医院も糖尿病の知識をもってもらいたい」「糖尿病であることを申告しない人、したくない人が多いのでは？（申告することの大切さが認識されていない）」「自分で口の中を

見てもよくわからないので、歯科へ行くタイミングがわからない」「低血糖対策用ブドウ糖摂取後の歯磨きは面倒で、つい放置してしまう」など、多くのコメントを頂戴しました。

●コメントターー●

鈴木吉彦 (日本医科大学客員教授、HDCアトラスクリニック院長)

歯周病は、患者さんが自身で歯科に通院している事で発覚する事が多く、一般内科医や糖尿病専門医が発見することが難しい疾患です。ただし、血中高感度CRPが高い糖尿病患者さんに出会った時には、一度、歯科を受診してください、と勧めることができます。高血糖があると、口渴が起こり、ドライマウスにもなりやすくなります。舌の異常を訴えたりする患者さんもいて、味覚障害が起こるなど、とくに冬場の乾燥した時期には留意しておくべき点です。たまに患者さんへ、歯周病対策はしていますか？といった声掛けをしてみると、意外な情報を引き出す糸口になるかもしれません。